

宮島小学校 6年 総合的な学習の時間

「宮島の町並みを伝えよう」

1 単元について

(1) 単元観

本単元は、探究課題「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）」を踏まえて構想した単元である。

町家通りは、江戸時代には商家や旅籠などが立ち並び、宮島のメインストリートとして栄えた通りである。現在の町家通りは、島民の生活道路として使用され、伝統的な町家建築の民家や、レトロモダンなカフェ、島民のための商店などが入り混じる、情緒漂う通りである。令和3年8月には、全国にある伝建地区の中で特に重要な地区を文化庁が指定する、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定された。町家通りには「宮島町家通り会」をはじめ、複数の保存する会があり、町家通りを保存・継承していこうとする方々がいる。

一方、児童は町家通りのことを「古きよき町並み」として考えており、全員が残していかなければならないと考えている。しかし、町家通りを「なんとなく」美しい景色だから残すという考えをしている児童が多い。それにとどまるのではなく、町家通りを保存・継承していこうとする方々の思いなどを聞き、宮島の歴史・文化・人の生活を象徴する町家の未来について、わたしたちは町並み保存についてどのように考え、行動ができるのかをねらったものである。

また、地域の発展について考え、行動することが、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」の目標達成につながることを意識させるものである。

(2) 児童観

今年度（9月）実施のアンケート調査で、ふるさと学習やつけたい資質・能力に関する質問項目についての児童の回答結果は、次の通りである。

表中の数字は（人）

質問項目	とても そう 思う	まあ そう 思う	あまり そう 思わない	全然 そう 思わない	6年生の総合的な学習の時間の 振り返りなどからの考察
宮島のこと（歴史・町・伝統・自然など）を他の人たちに紹介したいと思います。 【おもてなし力・見つめる力】	3	6	2	0	1～5年生までの生活科や総合的な学習の時間を通して、宮島の文化・産業を大切にしたいという強い思いを持っている。
授業では、筋道を立てて伝えることができます。 【伝える力】	0	5	5	1	クラスの約半数の児童が筋道を立てて伝えることができると感じているが、実際は相手の立場に立って分かりやすく伝えることに課題がある児童がいる。
授業の振り返りで自分で新しい課題（やりたいこと）を見つけています。 【見つめる力】	2	6	3	0	過半数の児童は、振り返りが次の学びに生かされていると感じているが、全員ではない。振り返りの充実を図る必要がある。

児童はこれまでの学習や体験活動を通して、地域の特産物や伝統工芸について理解している。しかし、それらの内容の理解でとどまっており、自分で課題を見つけ、取り組んでいくまでは至っていない。

宮島学習 今ある姿を「守り・継承すべき」学びと体験 心豊かな暮らしを育む創造		生き方・あり方学習 生き方・あり方の 探究と創造
3 環境 4 健康 5 文化	6 社会 7 国際 8 情報	キャリア発達
1 がっこうだいすき	いきものなまよし なつがやってきた たのしい あき いっぱい (7年生とドングリの調子を揃える) ふゆをたのしもう	もうすぐ2年生
2 たんけん はっけん 大すき宮島	生きものなまよし大さくせん ぐんぐんそだて わたしのやさい	あしたヘジャンプ
3 宮島の行事を伝えよう ゆめしい町 宮島本まつり 宮島の昔のくらしのよさを伝えよう		
4 宮島の「おばら」を伝えよう	マイタイムラインをつくらう (8年生と音を揃える)	10才のついで アップデートしよう
5 宮島伝統工芸展覧会を開催しよう	宮島の海を守るために行動しよう 環境シンポジウムを開催しよう	自然の中で仲間と協力しよう パワーアップ中継生！
6 伝統をつなごう 島の歴史を体験しよう 宮島の町並みを伝えよう		未来の自分に手紙を書こう
7 伝統をつなごう	宮島の自然を守るために行動しよう (1年生とドングリの調子を揃える)	自然の中でリーダーとして 仲間と協力しよう 働くことを自分事にしよう
8 伝統をつなごう	宮島の魅力★発見・実習 ・宮島を守るために音を揃えよう	自分の進捗と職業を 関連付けよう なぜ人々は働くのだろうか
9 伝統をつなごう	宮島大未来プロジェクト (個人探訪) ・宮島を守るために音を揃えよう	自己のありたい将来を 自分なりに決してみよう

本単元で学習する町家については、実際に住んでいる児童もいれば、ほとんど知らない児童もいる状態で、知っていることに大きな差がある。

(3) 指導観

本単元は、単元を通して「観光客に宮島の価値を伝えていくためにはどうすればいいのか」という問いを設定し、バックキャストの手法を用いて「10年後の宮島の町家はどんな姿であってほしいか」を考えることから探究を始める。

まず、課題の設定では、町家について知っていることや疑問を話し合わせる。その中から、自分が調べてみたいことや調べて伝えたいと思うことを選び、課題を設定させる。

情報収集をするに当たっては、活動の目的や一時的なゴールである発表を意識させて、自分の目的に応じた手段を選択し、課題解決のために必要な情報を集めさせるようにする。その際は、児童自らが取材先を決め、直接インタビューを行ったり学校に招いたりする機会を設ける。本物の町家やそこに暮らす人の思いを直接感じることで、宮島を誇りに思い、他の人に伝えたい気持ちを高めたい。

整理・分析の場面では、集めた情報を観点に沿って分類整理し、多様な情報の中にある特徴を見つけるように促す。また、自分の発表の目的に合わせて、集めた複数の情報を取捨選択したり加工したりするなど、その情報を効果的に活用し、説明する力をつける。

まとめ・表現・創造の場面では、発表や表現の場を複数設けるとともに、社会への参画を意識させるため、異なる相手に自分たちの言葉で伝える活動の充実を図る。具体的には、発表相手を「自分たち→保護者や地域→京都大原学院の6年生と先生方→観光客」というように少しずつ関わる範囲を広げることとした。自分たちで見合う発表練習では、聞き手が気づきや質問を直接伝えるだけでなく、Google スライドのコメント機能をつかって伝えるようにする。保護者や地域に伝える文化発表会では、Google スライドを活用して発表資料を作成する。また、文化発表会後に聞き手に対してアンケートをとることで、自分たちが伝えなかったことが本当に伝わったのかをふり返り、最終的には観光客にどのような表現方法で自分たちの思いを伝えるかを検討・実践していく。(最終的には etto 宮島交流館でポスター掲示を行った。)

このような探究の過程を通して、自分の思いや願いを深め、自分がしたいことを見つけて実行する力に繋げていきたい。そのためにも、めあてに対して「①本時でできたこと・分かったこと、②本時をふまえて、次回やりたいこと」を書くこと、「『住む人、商売をする人、行政、私たち』の4つの立場から、常に自分の立場を明確にして書くこと」といった2点に留意した振り返りの場面(時間)を毎時間設定する。

2 単元の目標

宮島を取材し、町家の歴史や保存の課題を整理する活動を通して、町家にかかわる人たちの思いに気づき、地域のために自分たちにできることを考え、町家のよさや課題に対する自分の思いを伝えるなど、進んで地域に働きかけ行動しようとする。

3 単元の評価規準とルーブリック

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の人や文化等のかかわりを通して、町家のよさや人々の思いや願い、地域のよさが分かる。【おもてなし力】 ② 見学やインタビューによる調査を相手や場面に応じて実施している。 ③ 町家に関する理解や大切にしたいという思いの高まりは、探究的に学習してきた成果であると気付いている。	① 町家の歴史や保存の大切さを伝えるために、調べる方法や手順を話し合っている。 ② 町家について、必要な情報を収集している。 ③ 町家について集めた情報を観点に沿って分類整理している。 【伝える力（整理・分析）】 ④ 相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめている。【伝える力（表現）】	① 自己の振り返りから目標を設定し、課題の解決に向けて行動しようとしている。 【見つめる力（主体性）】 ② 自他のよさを生かしながら、協力して課題を解決しようとしている。 【見つめる力（協働性）】 ③ 自分たちの生活や宮島の未来を考える大切さを理解し、地域に働きかけようとしている。 【見つめる力（将来展望）】

(2) ルーブリック

	B	A
おもてなし力	町家の歴史や課題、人々の思いや願いを理解している。 【知識・技能①】	町家の歴史や課題、人々の思いや願いが分かり、愛着をもっている。
伝える力	町家について集めた情報を観点に沿って分類整理している。 【思考・判断・表現③】	町家について集めた情報を観点に沿って分類整理し、多様な情報の中にある特徴を見つけている。
	町家の歴史や保存してきた人々の思いを相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめている。 【思考・判断・表現④】	町家の歴史や保存してきた人々の思いを相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、構成を考え筋道立てて表現している。
見つめる力	自己の振り返りから目標を設定し、課題の解決に向けて行動しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】	見通しをもって、自己の振り返りから目標を設定し、課題の解決に向けて行動しようとしている。
	自他のよさを生かしながら、協力して課題を解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度②】	自他のよさを生かせるよう課題を分担しながら、協力して課題を解決しようとしている。
	自分たちの生活を考える大切さを理解し、地域に働きかけようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度③】	自分たちの生活を考える大切さを理解し、地域に働きかけるとともに、自分の生活に生かそうとしている。

【SDGs との関連 11 番】



4 単元の計画 (全32時間)

次	学習活動	予想される児童の反応	評価規準			○指導上の留意点 ●他教科等との関連
			知	思	態	
1 宮島の町家通りについて調べよう	<p>課題の設定 (4)</p> <p>○担当課(廿日市市役所歴史まちづくり推進係)の方から町家の現状と課題を聞き、「観光客に町家のことを伝えてほしい」という願いを受け取る。</p> <p>重伝建の意義や市の取組を知り、児童は、町家のことを知りたい・伝えたいという思いをもった。</p>  <p>○町家について知ったことや分かったことをまとめる。</p> <p>○まとめたことや、担当課の職員の願いを踏まえて、単元のゴールを「観光客や宮島学園のみんなに町家のことを伝えよう」に設定する。</p> <p>○「住む人、商売をする人、行政、宮島学園6年生」の町家に対する思いが大切であることに気づき、取材計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町家のつくりについての話を聞く。 ・町家の現状や課題についての話を聞く。 ・町家を知っているかアンケートをとる。 	<p>町家通りや町家があることは知っていたけど、詳しく知らないね。</p> <p>観光客に知られていないことは知らなかった。</p> <p>どうして観光客は、町家のことを知らないのだろう。</p> <p>町家に住む人たちは、本当に町家のことを観光客に宣伝してほしいと思っているのかな。</p> <p>誰に聞けば町家のことを教えてくれるのだろう。</p>	①	①	①	○毎回の授業において、めあてに対して、「①本時でできたこと・分かったこと、②本時をふまえて、次回やりたいこと」、を書くことで、活動をふり返り、自分がしたいことを見つける。
	<p>情報の収集 (8)</p> <p>○町家について分かる場所や人を訪れたり招いたりして、取材する。 (ぎやらい宮郷・町家に暮らす人・観光客)</p>   <p>【取材活動の様子】</p> <p>○わかったこと・考えたことを共有する。</p> <p>○課題を設定する。「身近な人達に、町家のことを伝えよう」</p>	<p>町家の中ってなんだか落ち着くな。</p> <p>オウエという部屋があるのは宮島の町家だけなんだ。</p> <p>町家を遺していくために、多くの人に町家の大切さを伝えよう。</p> <p>文化発表会で、学園生や保護者、地域の人達に町家のことを伝えよう。</p>	②	②	②	●国語科「町の未来をえがこう 町の幸福論」バックカスティングの手法
	<p>整理・分析 (4)</p> <p>○集めた情報の内容を歴史や地域の方の思いなど項目ごとに分類する。 (つくり・課題・思い)</p> <p>○収集した情報をどのような方法で伝えるのかを考える。</p> <p>○伝える内容ごとのグループにわかれ、伝えたい内容を精査する。</p> <p>○精査した上で必要な情報が足りない場合は取材し直す。</p>	<p>宮島の町家の特徴をまとめよう。</p> <p>現状や課題をまとめよう。</p> <p>聞く相手は1年生もいるから、分かりやすい言葉で写真を多く入れよう。</p>	③	②	②	●国語科「防災ポスター」を作ろう 説得力のある書き方
3 調べたことを発信しよう	<p>まとめ・表現・創造 (7)</p> <p>○伝える内容を分担し、まとめる。</p> 	<p>どの順番で伝えれば、聞く人は分かりやすいだろう。</p>	①	④	④	○発表や表現の場を複数設け、異なる相手に自分たちの言葉で伝える活動の充実を図る。



【作成したスライドの一部】

- 発表会の準備をする。
- 練習の様子を撮影し、改善を図る。
- 文化発表会で発表する。(学園生・地域・保護者)

整理・分析 (2)

- 文化発表会で学園生や地域の方、保護者から受けたアドバイスをもとに訂正する内容を精査していく。
- 京都大原学院とリモートで交流し、宮島のことを伝える意欲をもつ。



【リモートの様子】

まとめ・表現・創造 (5)

- 精査した内容をまとめる。
- 大原学園が修学旅行で宮島に来た際、町家を含めた宮島ガイドを行う。



【島内ガイドの様子】

- より多くの人に町家のことを伝えるため、観光客に向けたポスターを作成する。



【作成したポスターの一部】

- ポスターを etto 宮島交流館に置かせてもらい、町家のことが伝わったかフォームでアンケートをとる。

振り返り (2)

- アンケートの結果をもとに、自分たちの活動を振り返る。
- 「私は宮島と、どうかかわっていきたいか」を振り返る。

アンケート結果から、内容が伝わったことが分かった。

行ってみたいと思った人が多かったから、現地で直接説明したいな。

今度、京都大原学院の6年生が修学旅行で宮島に来るから、町家ガイドをしたいな。

会話や意見交流をするためには、どのようなことに気をつければいいのかを。

質問を求めるのではなく、こちらから質問しよう。

ガイドをしながら町家のことを伝え、質問に答えたり感想を聞いたりした。京都と宮島の似ている点・違う点について交流できた。

直接説明することで、町家について詳しく知ってもらえたけど、より多くの人に興味をもってもらうためにはどうすればいいだろう。

観光客に向けた町家ポスターを作ろう。

レイアウト・キャッチコピーが大切だね。

ポスターを見て町家を散策してもらえたかな。

これからも町家を守る活動に着目したいな。

わたしは、宮島を出てもいつか帰ってきてたい。行事のときは帰って参加したい。

○文化発表会後に聞き手に対してアンケートをとることで、自分たちが伝えなかったことが本当に伝わったのかを振り返り、次の発表や表現に生かす(留意点2-2)

●社会科「武士の世の中へ」平清盛のつながり

○普段の友達との会話が盛り上がる理由を考えさせ、ロールプレイングを用いて、会話の練習をさせる。

○写真撮影は、地域のアマチュアカメラマンに依頼し、指導・助言を受ける。

作成したポスター12枚は、学園生・教員の投票により5点選出。A2版に印刷し、棧橋に掲示した。また、12枚すべてを etto 宮島交流館に掲示し、観光客や町民に見てもらった。

○町家だけでなく、これまで学習してきた宮島にかかわることについて、宮島ファイルを用いて振り返らせ、宮島に対する愛着や誇りに気付かせる。

5 本時について（14時間目／全32時間）

(1) 本時の目標

町家の歴史や暮らす人々の思いを相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめる。

(2) 準備物

電子黒板 タブレット

(3) 本時の学習過程

時間	学習活動	教師の働きかけ ○支援 ・評価 () 評価方法
5分	1 本時の学習課題をつかむ。 ㊦ 伝える目的や伝える相手を意識して、発表する内容や方法を考えよう。	○文化発表会を経験していない児童がいるため、昨年度の様子をふり返り、イメージをもたせる。
30分	2 伝える目的を考える。 「町家や町家通りの大切さを伝えることで、町家をのこしていきたいと思う人が増えてほしい。」 3 伝える内容を考える。 ・オウエ ・町家通りの現状と課題 ・町家で暮らす人の思い ・自分たちにできること 4 伝える方法を考える。 ・スライド ・劇 ・ダンス ・歌 5 内容ごとに分かれ、スライドを作成する。	○「来た人に町家のことを伝える」ことが目的ではないので、何度も切り返し、自分たちはなぜ町家のことを伝えたいのかを考えさせる。 ○「自分たちや聞く人が楽しいから～をする」といった選び方ではなく、目的に沿った方法を考えさせる。 ・町家の歴史や暮らす人々の思いを相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめている。 (スライド・振り返りシート)
10分	6 振り返りをする	○めあてに対して①今日できたこと・分かったこと②次回取り組みたいこと、を書く。

本時の評価規準 ルーブリック

	B	A
伝える力	町家の歴史や暮らす人々の思いを相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめている。	町家の歴史や保存してきた人々の思いを相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、構成を考え筋道立てて表現している。

単元構想シート

小学校第6学年

教科等 総合的な学習の時間

単元(題材)名 宮島の町並みを伝えよう

① 本質的な問い (何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

10年後の宮島はどうあるべきか。

② 単元を貫く問い (単元を通して考えを深めていく「問い」)

観光客に宮島の価値を伝えていくためにはどうすればいいのか。

③ 個別の問い (単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能)

- ・ 宮島の町家の特徴はなんだろう。
- ・ 町家に住んでいる人はどんな思いがあるのだろう。
- ・ 行政と宮島の町家はどのようにかかわり合っているのだろう。
- ・ 町家を保存するために、自分たちができることは何だろう。

単元計画の
構想を立て
る

- 1 宮島の町並みの特色を知る。
- 2 町家について地域に出かけて取材する。(ぎやらい宮郷・町家で暮らす人・保存に携わる人など)
- 3 調べたことから町家のよさや課題・地域の人々の思いをまとめ、伝える計画を立てる。
- 4 文化発表会で、学園生・先生方・保護者・地域の方々に対して町家の発表をする。
- 5 京都大原学院の6年生に対して宮島ガイドを行い、町家について伝え意見交流する。
- 6 etto 宮島交流館にポスターを掲示する。
- 7 学習を振り返る。